

先生へ

ラジオネーム：宿題出し忘れちゃん

先生が高校卒業を見送ってくれるものだと、ずっと思っていました。病氣と闘っていたのですね。

高校2年生の3月、4月から迎える、進路を決める大切な1年は、先生と過ごしたいと思っていました。「担任は先生がいいな」「進路指導は先生がいいな」。先生となら、納得のいく進路を決められると信じていました。

先生は、ちょっと成績が思わしくない私も絶対に見捨てなかったですね。宿題が終わらなくて提出できなくても、頭ごなしに怒るのではなく、しっかり私の話も聞いてくれました。でも、提出できない回数が多すぎて、最後のほうはちょっと呆れられていましたよね（笑）62期生で宿題忘れといえば、私。この手紙のラジオネームにもしちゃいました。先生、わかりやすいでしょう？誰か分かったでしょう？

ある日、また宿題を忘れて先生と話しているよ」「宿題って、先生のためだと思っていない？ 先生に怒られないようにやるのではなくて、自分のためだと思ってやっついたらどう？。あの先生も宿題は、今後に役立つと思ってるのだから」

この一言が心に残り、それ以降は今までの自分が嘘だったかのよ

うに、宿題も提出できるようになりました。成績もどんどんあがってきたことも一緒に喜んでくれましたね。

その年の3月。新聞で先生の異動についてみると、先生の欄には、退職の文字が。「先生退職するの?」と衝撃を受けたことを思い出します。その後、挨拶したときに「先生と一緒に高3を迎えたかったです」とお伝えすると、これまでみたことがない表情で「ごめんなあ、でも成績が上がってきたんだ、もっと上を目指してみたらどうだ」と話してくれました。

それから数年後、先生が亡くなったと聞き、その時に初めて、あの年の退職は「病気と闘っていたからと知りました。もしかしたら先生も、私たち62期生の卒業を見たかったのではないかと思っています。

「コロナ禍もだんだん、落ち着き、「今年の夏、同窓会しようか」という話になっています。その際には、先生も参加しつくだせいな??

／ ありがとう

松原